

前市長と議会との混乱に終止符を打ち、初当選して4カ月が経過した新宇陀市長の金剛一智氏(63)は、初めて臨んだ9月議会定例会の所信表明で「安定した行政」「情報の共有」「エビデンス(根拠)に基づいた事業展開」「職員の責任」「連携と協力」を市政の進め方の考えと述べ、掲げる7つのまちづくりへの目標実現のため全力で取り組む姿勢を示した。日々「活気あるまち」を取り戻すのに余念のない金剛氏。今後の市政運営などについて聞いた。

宇陀市長 金剛一智氏

「活気あるまち」 取り戻すため全力

―9月議会が終わり、本格的な「金剛市政」の始まりです。今の思いからお聞かせください。

宇陀市は昔から栄えてきた誇りある町です。ただ、過疎化や少子高齢化が進み、市の財政も非常に厳しいです。さらに新型コロナウイルスが市民の生活や経済活動に追い打ちをかけています。これだけ危機的な状況下で、立場を超えて、大きい地域の活性化に向けて「オール宇陀」で取り組んでいくこ

とが、方針であり大事だと思っています。

―5つの柱となる考え方に基づき、7つの各分野別まちづくりについて具体的に話します。

まず1つ目は経済の活性化。大和高原という地の利もあり、地域には高原野菜や大和牛、毛皮革産業など有名なものがたくさんあります。全部まとめて「大和高原宇陀ブランド」というネーミングで、全国へトップセールスをしていきたいです。

2つ目はにぎわいの復活です。特に県とは榛原、大宇陀、菟田野、室生で拠点づくりについて平成27(2015)年に連携協定を結びました。ところが、ずっと止まったまま。榛原駅前をはじめ、それをとにかく動かしします。

これは新しい観光の切り口ですが、11年後に奈良国体が来るタイミングもあり、宇陀をスポーツツーリズムで盛り上げたいと思っています。宿泊施設も用意していきます。つまりがスポーツを通じて関係人口の増加ができるのではないかと考えています。

3つ目は健康長寿のまちづくり。医療と福祉が一体になった、健康ウェルネスシティというまちづくりを進めています。市立病院で面倒見のいい地域ケア、医療、介護、健康ということをしっ

かり取り組んでいきます。やりたいのが、宇陀で重症心身障害者(児)の居場所づくりです。

4つ目は農林畜産業の活性化です。宇陀市には耕作放棄地が500軒あり、県内一の広さ。その解消の一つとして、伊那佐地区を特定農業振興ゾーンにエリア設定し「大和高原宇陀ブランド」を展開していきます。

また宇陀の木は大変質も良く、担い手も少しずつ増えています。木も単なる建築資材ではなく、例えばアトピーの症状が緩和できるなど、人の健康にとって良いという面が見直されてきています。健康に良い宇陀の木を、住宅などの建物に使っていただけたらいい、PRしていきたいと思っています。

5つ目は子ども、女性、高齢者の元気なまちづくりです。2つだけ紹介しますと、「三つ子の魂百までプロジェクト」ということで、小学校に上がるまでの子どもさんのはぐくみを応援したいと思っています。あと、こども食堂、地域で子どもを育てるというようなまちづくりもしていきたいです。

もう1つは、榛生昇陽高校と大宇陀高校が令和4年に宇陀高校となり、新しくスタートします。福祉を引っ張ってくれる保育と介護の専門的な高校になるということ、介護面で外国の方も学びに

来るということです。コラボでまちづくりができればと思っています。

6つ目は住みやすいまちづくり。自然も豊かで大変気候が涼しく大阪にも近い高原都市です。そういうところで、移住定住を進めていきたいと思っています。特に宇陀市はまだまだ地域の繋がりが強いところなんです。近所付き合いのまちづくりの取り組みを応援したいと思っています。道路交通法の制度を使い12月から、地元の人が高齢者を自家用車に乗せて、有償で買い物や病院へ連れていくサービスがスタートします。もう一つは天満台のよう

なニュータウン。ここも高齢化、過疎化しています。市役所が外に向かって「良い住宅地ですよ」と、積極的にPRしていきます。実は堺の泉北ニュータウンで市役所が一生懸命PRすると、若い人が「じゃあ、住もうか」と戻ってきたという成功事例があります。

7つ目は、持続可能なまちづくりです。まずはコロナ対策ですね。災害管理体制についてもしっかりと取り組んでいきます。あと市の方では4町村が合併しましたから、保養施設「美榛苑」を含めてたくさんの方の公共施設や市有地を抱えています。そういう資産をしっかりとマネジメントしていきたいです。

―それ以外に、考えておられることがあれば。

テレワークとか、移住を「お試し」してもらおう拠点づくりがあります。短期間でも移住体験してもらうような拠点づくりを市内でやろうとしています。それと、「大和高原宇陀ブランド」について、東京と大阪の都心でのプロモーションと、新しい周遊滞在型の観光についてのビジョンをつくってきたいです。

「大和高原宇陀ブランド」について、東京と大阪の都心でのプロモーションと、新しい周遊滞在型の観光についてのビジョンをつくってきたいです。



県との連携協定で整備が急務となっている近鉄榛原駅前

「大和高原宇陀ブランド」売り込みへ

と、積極的にPRしていきます。実は堺の泉北ニュータウンで市役所が一生懸命PRすると、若い人が「じゃあ、住もうか」と戻ってきたという成功事例があります。

7つ目は、持続可能なまちづくりです。まずはコロナ対策ですね。災害管理体制についてもしっかりと取り組んでいきます。あと市の方では4町村が合併しましたから、保養施設「美榛苑」を含めてたくさんの方の公共施設や市有地を抱えています。そういう資産をしっかりとマネジメントしていきたいです。

―それ以外に、考えておられることがあれば。

テレワークとか、移住を「お試し」してもらおう拠点づくりがあります。短期間でも移住体験してもらうような拠点づくりを市内でやろうとしています。それと、「大和高原宇陀ブランド」について、東京と大阪の都心でのプロモーションと、新しい周遊滞在型の観光についてのビジョンをつくってきたいです。

奈良県信用金庫協会



奈良信用金庫

理事長 田村 好美

本店 大和郡山市南郡山町529の6
TEL (0743) 54-3111(代)



大和信用金庫

理事長 森川 善隆

本店 桜井市桜井281の11
TEL (0744) 42-9001(代)



奈良中央信用金庫

理事長 高田 知彦

本店 磯城郡田原本町132の10
TEL (0744) 33-3311(代)